

八王子の新たな図書館計画 A new library plan in Hachioji

杏林大学総合政策学部田中ゼミナール
三瓶結香、高木達也、高橋圭汰、竹本美紀
指導教員 田中信弘

キーワード：IT教育・電子書籍・図書館・読書のまち・跡地再開発

1 「読書のまち八王子」について

八王子市では、平成15年度から「読書のまち八王子推進計画」の取り組みをはじめ、5年ごとに見直しをしている。平成29年の現在では、第3次計画がなされ、子供から大人まで「いつでも、どこでも、だれでも」が読書を楽しめる環境づくりを目指している。とりわけ、これからの将来を担う子供たちに対しての活動では、八王子市内の各校で、児童・生徒に「朝の読書」、「10～15分間読書運動」が広がるような取組みの呼びかけや、子供たちが興味をもつ本の伝達などに積極的な活動をしている。また、「国立青少年教育振興機構」が、平成25年2月23日付けで発表した「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」では、子供の頃に読書活動が多い成人ほど、「未来志向」、「社会性」、「自己肯定」、「意欲・関心」、「文化的作法・教養」、「市民性」のすべてにおいて、それらの意識・能力が高いとされている。そのため、子供のころから読書の慣習を身に着けることは、教育としても大きな効果があると考えられる。

しかしながら、八王子の市民に対して、「読書のまち」としての注目をしてもらうには、なお訴求力を必要としているように思われる。近年話題になっている「町おこし」や「地域活性化」で成功してきた都市の大部分は、今までにはなかった「新規性」を導入している。したがって、八王子があらためて「読書のまち」になるためには、誰もが注目する「新規性」を取り入れる必要があるのではないだろうか。学園都市、八王子にふさわしいテーマとして位置づけられる課題であろう。

2 八王子図書館の現状について

「読書のまち八王子」を考えるにあたり、とりあえず、八王子市の図書館の現状と課題について考えてみたい。現在、八王子には、中央図書館、中央図書館北野分室、中央図書館みなみ野分室、生涯学習センター図書館、南大沢図書館、川口図書館の計6箇所の図書館がある。その中でも八王子中央図書館は、東京都内の公立図書館の蔵書数では、最も多い図書館であることが有名である。

平成27年度における八王子市全体の図書館についての「満足度調査」（対象は、6つの図書館、各

100人、計600人を対象）によると、「職員の対応」が最も評価が高く、反対に最も評価が低い意見が「図書館の資料の品揃え」であった。八王子の図書館は規模が大きい割には新刊などの資料が多く揃っていないようである。蔵書数は多いが、八王子の人口も多いので、蔵書数が全体に見合っていないことが問題でもあろう。

また、八王子市の図書館の開館時間が、10-19時までと、6箇所の図書館に共通して開館時間が短いことも、満足度調査において評価が低い点であった。東京都内の図書館を見てみると、葛飾区、台東区、千代田区、豊島区など、22時まで開館している図書館があり、新宿区の5箇所の図書館や、江戸川区の図書館10箇所は、21時まで開館していることは、注目すべき点である。地域によっては、休日は開館している時間を平日に比べて長くしたりしている図書館なども見受けられ、利用者にとっての利便性を提供しようとしている。夜遅くまで開館している理由として、遅くまで開館している場合、平日に仕事がある人も仕事帰りに利用することが可能であることを指摘しておきたい。

このように、図書館利用にあたっての課題として、①図書館の資料の品揃え、②開館時間が短いという2点に注目し、それらの対策として、①については、通常の本や雑誌の蔵書を増やすことの限界を考慮し、電子書籍の充実化の方向性を提案したい。また、②については、幅広い年齢層の人々がもっと電子書籍の活用に慣れていくための環境整備として、IT活用技術の普及方法について提案したいと考え、それらの提案を行いたい。

3 「医療刑務所跡地」の活用について

現在、八王子の「医療刑務所跡地」を活用するための「八王子医療刑務所跡地移転後用地活用計画～新たな集いの拠点を目指して」が審議されている。この計画では、移転する予定の「八王子医療刑務所」跡地に新たな集いの拠点として、「みんなの公園」、「歴史・郷土ミュージアム」、「憩いライブラリ」の三つの施設を建設することが予定されている。私たちは、この3つの施設のうち、「憩いライブラリ」のあり方に注目する。この「憩いライブラリ」とは、「学び・交流・集

い」を促進するための施設というコンセプトがあり、計画案を検討してみると、「交流」や「集い」といった側面には推進すべき計画の内容がすでに含まれているように感じられるものの、一方で「学び」の観点については、より検討すべきところがあるように感じられ、この点の具体的検討を通じて、同施設に対しての私たちの提案を行う余地があるように考えた。

私たちは、この「憩いライブラリ」の「学び」というコンセプトに注目し、具体的には「IT活用のための教育」に注目してみた。これまで、八王子市では、平成20年度以降、学校でのIT教育のための取り組みが重視されて行われてきた。しかし、その点については、なお十分なIT教育がなされていないとは言えないと考える。そこで、現在、建設予定の「憩いライブラリ」を通常の本・雑誌だけでなく、電子書籍にも触れ合える図書館としての位置づけを重要なコンセプトとして考えた。

まず、「憩いライブラリ」では、一般の本の貸し出しとともに、タブレットやパソコンの貸し出しを行うことで、利用者に少しでもインターネット環境等に触れてもらう機会を増やす狙いを提案したい。当然のことではあるが、貸出書籍の電子化が進められれば、多くのメリットがあると思われる。

図書館としては、膨大な量の蔵書も必要なくなるため、全体としての本の管理費なども抑えられるだろう。また一方、最近のタブレット端末は軽いものも増え、誰にでも使いやすくなっている。とりわけ、重たい辞書や図鑑などはタブレットであれば、子供たちでも簡単に物事を調べられる。また、子供が本を汚してしまったり、ページを破ってしまったりする心配も少ない。さらに、高齢者にとっては、電子書籍は文字の拡大がすぐに行えるため、紙媒体よりも見やすいものになっている。また、大学生についても、レポートや論文の作成についての利用を促せると思われる。

最近では、タブレットの学習機能も充実している。自動採点機能に加え、動画などの解説を何度も見返すことができる。勉強に行き詰ったときや、学校・塾の宿題なども含め、放課後の勉強スペースとしての活用法が期待できるといえよう。

そのため、電子書籍の利用をさらに促進させるための、子供から大人まで参加できる「パソコン・タブレット教室」などの開催を、「憩いライブラリ」の主要な推進事業として提案したい。高齢者や子供たちなど、まだまだ電子書籍やインターネットの正しい活用のための学び場としてのニーズが大きく存在しているはずである。新しい図書館の機能を訴求することで、跡地活用への市民の期待が高まるような政策の実行が求められているはずである。その辺りを、今後の重要課題の一つとして意識している。

4 「学び」のある図書館の先行事例

私たちが提案する「学び」のある図書館の先行

事例として、実は、大学の図書館に注目してみたので、いくつかの試みを紹介したい。

① 武蔵野美術大学図書館

新しい時代の大学図書館を目指して、ICT機能を導入。「ユビキタスライブラリー」機能や「ラーニング・コモンズ」の環境を整えた。デジタル・ライブラリー機能もある。

② 国際教養大学図書館

24時間365日、いつでも利用可能である。多くの蔵書スペースに囲まれるような形での「半円」建物のデザインも特徴である。

③ 上智大学図書館

大学院生が授業期間中の午後に常駐しており、きめ細かく学部生の学習を支援しており、幅広い相談にも乗ってくれる。

この他にも、学習支援として「ラーニング・コモンズ」を実施している大学は、杏林大学も含め、多く存在する。実際に、このような機能を「憩いライブラリ」の目玉として提供するのみならず、八王子市の既存の図書館にも導入すれば、「学び」の場としての図書館機能の推進事例になるであろうと考えた。

5 結語

私たちは図書館を「学び」の場とすることで、より多くの人々が利用できる便利な機能を強化することを提案した。八王子市に導入するにあたって工夫する点は、やはり、もう一つの課題として「開館時間」の問題であろう。この点については、指定管理者制度の活用を通して、民間への委託が課題ではないかと考える。すでに多くの民間活用事例が蓄積しており、「憩いライブラリ」の運営面での工夫も考える必要があるだろう。

大学生が多い八王子ならではの特色を生かすために、「読書のまち八王子」のコンセプトをさらに生かしていく工夫として、私たちの提案が少しでも役立つことを願っている。

【参考文献】

八王子市「八王子医療刑務所移転後用地の活用検討」

八王子市「八王子市教育情報化推進プラン」

平成27～29年度

文化庁「国語に関する世論調査」平成25年度
国立青少年教育振興機構「子どもの頃の読書習慣は大人になってからどう影響する？」